

海況速報

平成 2 年度 第 5 号 (No.17)

平成 2 年 12 月 18 日

北海道立水産試験場

12月(上～中旬)の海況

全般的に表層での冷却が弱く、降温が遅れています。従って、表面水温はここ3年のうちでは最も高めとなっています。また、冷却による対流混合層も全般にまだ例年より浅い所にとどまっている模様です。各海域の特徴は以下のとおりです。

【日本海】

表面水温は、道南海域沖合では7℃台に降温しましたが、津軽海峡西口沖では100m層まで14℃台です。また、石狩湾沖では12℃台の暖水が北上していますが、道央沖合～道北海域でも10℃以上を示しています。

中・下層では、北緯43度以南沖合には冷水域が顕著ですが、積丹半島沖合では暖水域が広がり、一部は暖水渦を形成しています。

余市前浜における沿岸平均水温も依然平年より高めに経過しています。

【オホーツク海】

表面水温は、沿岸暖流域では宗谷海峡から湧別付近までは10℃前後とまだ高水温を示しています。しかし、北部沖合域では2～3℃台まで降温してきています。沖合域の50m層では対流混合が盛んとなって表面と同程度の水温となりましたが、100m層ではまだマイナス水温域が維持されています。

【太平洋海域】

道東近海の表面～50m層までの水温は7～8℃台ですが、北緯41度、東経145度付近を中心に13～14℃台の暖水の北上がみられています。

200m層では、道東近海域では広く3℃以下の冷水が分布しています。

また、道南太平洋海域の表面～50m層水温は11℃台から、津軽海峡東口で14℃台を示しています。100～200m深では恵山沖の冷水(塊)が顕著となっています。

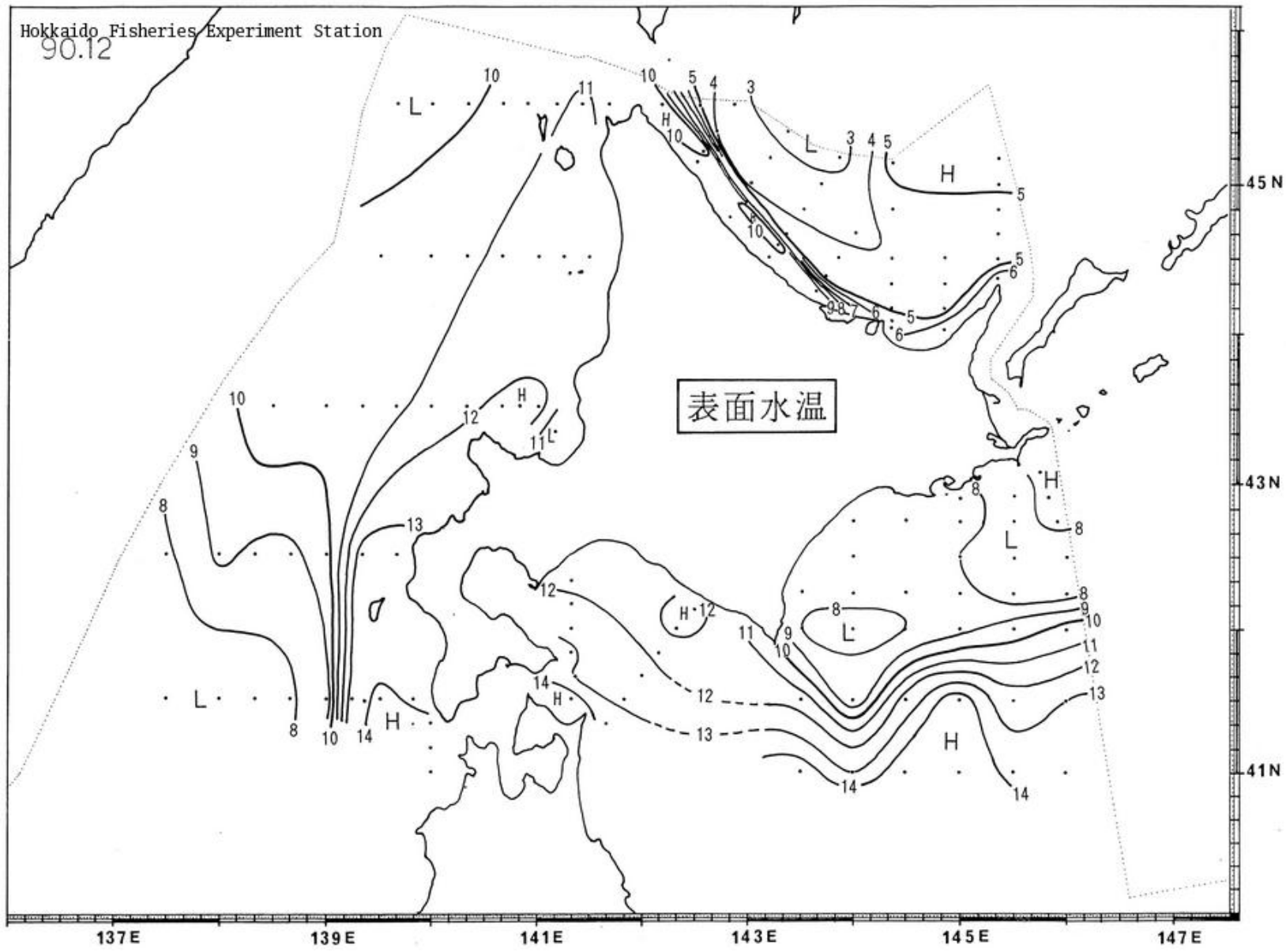
資料【観測期間】

稚内水試(北洋丸)	12.4 - 6	(道北日本海域)
〃(〃)	12.10 - 13	(オホーツク海域)
釧路水試(北辰丸)	12.4 - 7	(道東太平洋海域)
函館水試(金星丸)	12.4 - 5	(道南太平洋海域)
中央水試(おやしお丸)	12.5 - 8	(道央～道南太平洋海域)

(中央水試 海洋部)

Hokkaido Fisheries Experiment Station
90.12

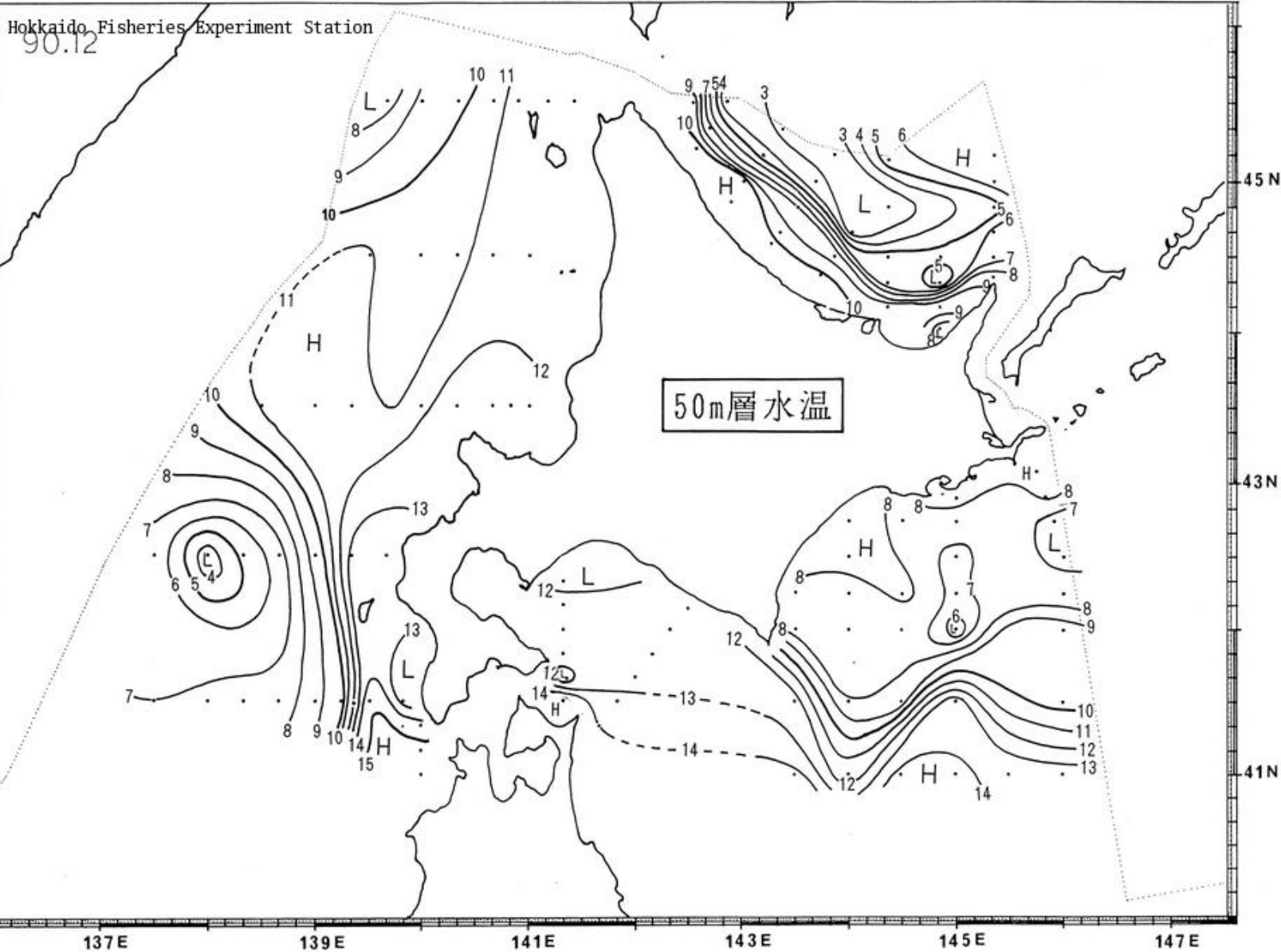
表面水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

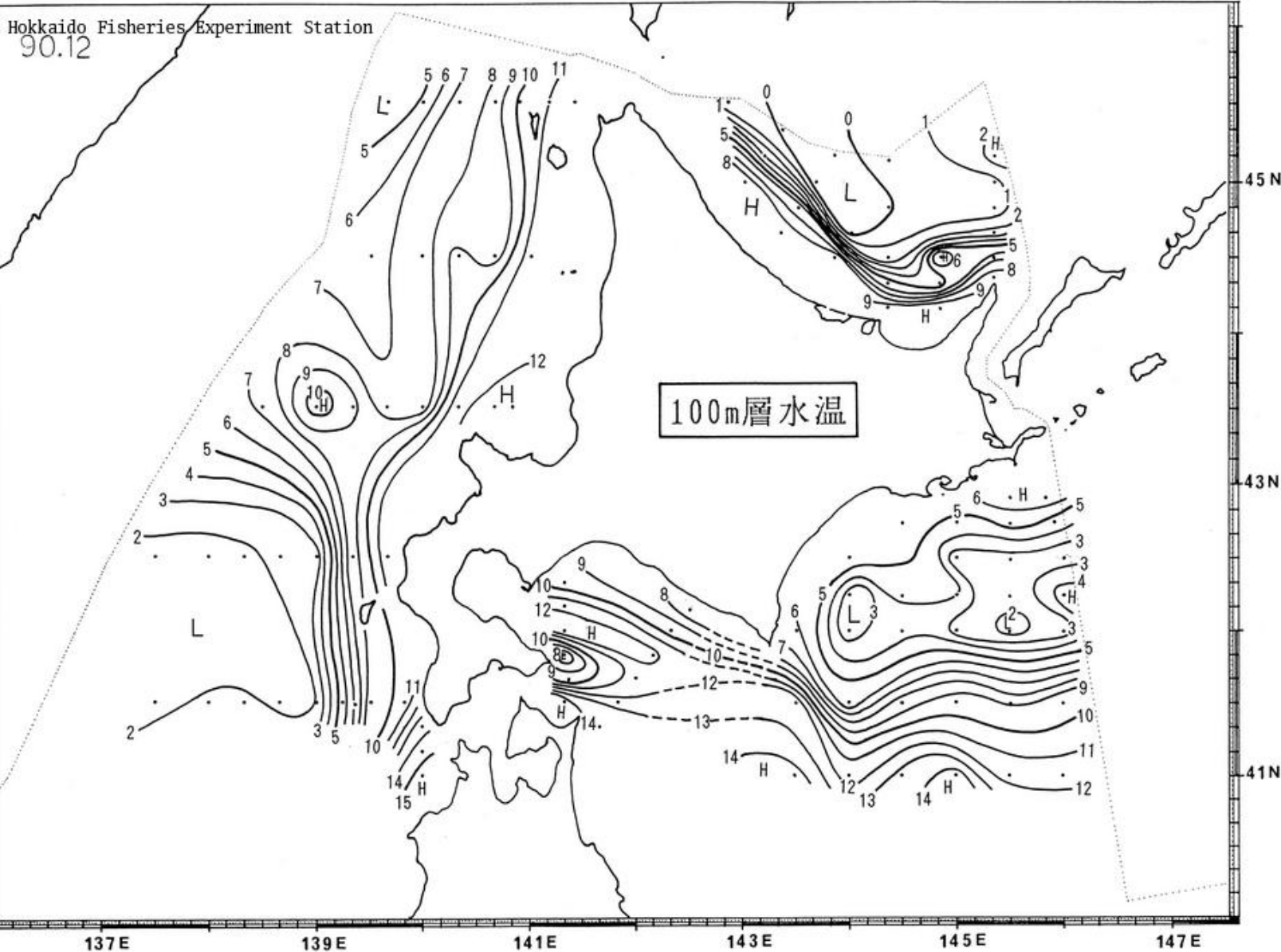
90.12

50m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station
90.12

100m層水温



137 E

139 E

141 E

143 E

145 E

147 E

45 N

43 N

41 N

Hokkaido Fisheries Experiment Station
90.12

200m層水温

